

宇都宮市立清原北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○読書に関して肯定的な回答が多い。1ヶ月の読書量も11冊以上と回答している児童の割合が多く、未読児童はいない。
 ○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合は90%以上と高く、引き続き、授業の中で、学習の意義を意識できるような指導を行っていく。
 ○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」「分からない国名や地名があったらインターネットや地図帳などを使って調べている」の肯定的割合は高い。これからも辞書で調べたことやインターネットから得た知識を活用する機会を設けるようにする。
 ●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合が低かった。朝の会や集会のスピーチ、各教科での話し合いの時間には、児童が話したくなるような課題を設定したり、話し合いの手順や話型などを提示し支援したりすることで、自分の意見・考えを進んで伝えられるようにしていきたい。
 ●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている児童が多い。文章を書くときにキーワードとなる言葉を提示することで文章を書く補助としたり、教科書の文章を視写するなど文章にふれる機会を多く設けたりすることで、文章を書くことへの苦手意識を減らし、意欲を高められるようにする。

宇都宮市立清原北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や 成就感を高める授業づくり	・めあての提示と見通し、学習の振り返りを徹底した授業づくり ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や板書、授業展開の工夫	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」や「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」の肯定割合は市・県を上回っている。また、「勉強していても楽しい・楽しいと思うことがある」の割合は、4年生は肯定的割合が高く、5年生は低くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙において、話し合いに関する項目の肯定的割合が低かった。 ・自分の考えを文章にまとめて書くことは難しいと考えている児童が多い。	・話し合い活動の充実 ・書く力を高めるための指導	・朝の会や集会のスピーチ、各教科での話し合いの時間を設けたり、児童が話したくなるような課題を設定したりする。 ・自分の考えを読み手のことを考えて書く活動を行ったり、時数制限や短い言葉で要点をまとめるなどの機会を作って文章を書かせたりしていく。